

BLEACH — 死神代行

桂ヒナギク

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

学校で虚に襲われた光は、苺花に救われる。

だが、その必要はない、と苺花を一蹴した。

放課後、虚に襲われ、絶体絶命の大ピンチ……にも思えたが……。

E
p
i
s
o
d
e
1

目
次

1

Episode 1

少女の名は、一宮いちみや 光ひかり。空座第一高校の一年生だ。

「はー、だりー」

一限の授業を終え、光は机に伏した。

「光、まだ一限終えたばかりじゃない」

そういうのは、後ろの席に座っている、近藤こんどう 紗雪さゆきという女子だ。

光と紗雪は中学からの親友であった。

その時、校庭から爆音が聞こえてきた。

砂地にクレーターが出来上がっている。

クラスの全員が校庭を見やる。

「なにあれ？ クレーター？ 隕石かしら」

「あん？」

光が校庭を見る。

クレーターの真上に、胸部に穴の開いた仮面の怪物が立っていた。

他のものには見えていないようで、それが霊であることはすぐに理解できた。

怪物、もとい虚ホロは照準を光に定めると、真っ直ぐ飛びかかった。

窓ガラスが割れ、虚が教室に飛び込んでくる。

「うお!？」

間一髪で躲かわす光。

攻撃を当てそびれた虚は、床を滑りながら机や椅子を薙ぎ倒した。

クラスメイトの男女が位置のズレた机や椅子を見る。

「なんだよ今の!？」

光は虚を見る。

虚は光を狙っている。

(私を狙ってる?)

光は教室を飛び出した。

虚が光を追う。

「くっ……追いつかれてたまるもんですか!」

廊下を勢いよく駆け抜ける光。

その時、刀を持った死覇装しはくしようという黒い袴姿の赤毛の女の子が現れ、虚を一刀両断する。

「ぐおおおおー！」

虚は悲鳴を上げながら消滅する。

「やっつけたの!?!」

刀を鞘さやに収め、振り返る赤毛の少女。

「あなた、アレが見えてたの?」

「君は?」

「阿散井あぼらい 蓼花いぢか。尸魂界ソウル・ソサエティから来た死神よ」

「死神? 私を連れに来たの?」

「いや、助けに来たのよ」

「え?」

「あなたみたいに霊力が高いと虚に狙われやすいからね」

「虚って、さっきの仮面の?」

「うん」

「別に助けてなんてお願いしてないわ」

蓼花は眉間に青筋を立てる。

「せっかく助けてあげたのになによその言い草! もういい! 二度と助けないから!」

蓼花はそう言つて姿を消した。

光は教室に戻った。

「光、どうしたの? 急に飛び出したりなんかして」

「別に」

光は席に着いた。

……。

……………。

……………。

放課後。

光は一人で帰路に就いていた。

その時、異様な気配を背後から感じた。

後ろを確認すると、先ほどのような姿をした虚が一体、光を尾行し

ていた。

光は立ち止まり、振り返った。

「あんた、私に何か用？」

「この俺の姿が見えるたア、極上の賜物たまものよオ！」

虚が鋭利な爪で光を引き裂いた。

「ぐっ！」

光の体から血飛沫ちしぶきがあがる。

「なんだ？ 大人しく食われてくれるのか？」

「いんや、あんたをどうやって始末するか考えてたのよ」

「なんだとオ!？」

虚はいきり立って光に襲いかかった。

光は攻撃を躲し、腰にぶら下げている死神代行戦闘許可証を掴む。

電信柱のてっぺんから、その様子を見下ろしている蓐花。

「へえ。そういうことだったんだ。納得」